広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	空〈故 関谷孝英君を偲んで〉
Author(s)	無名氏,
Citation	広大言語 , 10 : 41 - 44
Issue Date	1970-12-15
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00046353
Right	
Relation	

言っても、君は頭だけで考え、左翼的議論をする事によってのみ満足するような男ではなかった。君は君の考を具体的行動に表わさずにはおれなかった。広島大学の部落問題研究会の人達と一緒に部落解放の為に青春のエネルギーを注いだのがそれである。

卒業後は、希望通り新聞記者になった。しかし朝日新聞という大企業の中で、「おまえはダイブ片寄っている。タタキ直してやる」と支局長に言われながら、ますます具体的にこの社会の矛盾に直面していた事と思う。僕がフランスへ行ってからは、あまり手紙も書かなかったが、いつかL'Humanité（フランス共産党機関紙）、Combat，Le Monde，Figaroなど数種の新聞を買い揃えて送ってやった事がある。返事はもらっていないが、相変らずの調子で、バンバン書いてジャカスカ（こんな言葉づかいが君は好きだった）やっていたものと思っていた。久しぶりに帰って来たので、そのうち会って積もる話を聞かせてもらいたいと思っていたのに、君はもうこの世にはいないのか。君には、我が言語学教室の先輩K氏のいつも言われるように、「人間が人間として尊重される世の中を築く」ために、もっともっと仕事をしてもらいたかったのに

昭和45年10月

空

無　名　氏

五年ばかりも前になる
言語のハイクは水分峡に遊んだ
あなたは
フランスに行った親友と言ってくれた
俺れの目がぎらついていると
ただものではないと
　　遠い前から
　　眼玄が血ばしった
　　かろうじて

　　緑の風だけがなだめてくれた

先輩は僕の肩を

どやしつけた

二発くらってよろめいたら

「しっかりやれェーエ　オイ！」もう一発

ガツンと骨が鳴った

先輩の血は熱かった

　　山の岩場で

カンツォーネを歌えといった

会館の二階で「枯葉」を歌えといった

先輩の語法は

ぶっきら棒だった

僕らにも　先生にも

いいたい事をいった

醜を美化するすべを知っていた

勇気は持続した

あなたを二度しか見なかったが

熾烈な魂は時を然縁した

三年ぶりに会えたのに

「俺たちに覚悟はある、あいつを越えねばならない

それがあいつの願いだ」

あなたの偉大な親友はさみしい僕を

叱咤した

僕とてあの熱い流れを

忘れたわけではなかったが

『川内君は死んだのではない　俺たちの機構に殺された

彼への贖罪はやさしい心を持つことにしかない　そして

第二の彼を救うことにしか』というあなたが

消えたのだ

僕もつかれた　言葉はもれる

ただしかし

疲れはてたあなたが今

あの遠い空間を悠然とただよいゆくに

疑いはない

くるしくやさしくきらめきかけた

あの青い青い球体を僕も見た

肉体はかけらも残らなかった

葉脈のすきまから

魂のみが流れていった

それは見えない永遠の影だった

やさしい緑の原点が

汚されている

それが誰であるか

俺たちは知っている

かなしい脈が開く

にぶいろの毒が俺をさす

笞は血ばしる

眼底で奴らを記える

冷たい笑いが嘔吐する

　　そして

あなたのたぎりたつ海までも

灰色のふぶきと化して拡散する時

もはや人は何も見えない

肉はかけらもとけていったが

常ずしも歯ぎしりは聞こえない

あなたは見た

　　世界の空を

あなたは把えた

　　不可視の尖光を

　　あなたがいない今

　　言葉は逃げる

　　超光速で逃げてゆく

　　僕も又空だった

それでもなお

　　人が涙うるませ

　　思い出すのは

　　やさしい人の心である

　　僕は今

　　さみしさに

　　たえがたい

さようなら先輩さようなら